

所属・資格 英文学科・教授

申請者氏名 吉良 文孝

研究課題		英語のテンスとアスペクトの研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	英語のテンスとアスペクトの関係性を網羅的にまとめることを本研究の目的とした。テンスとアスペクトは異なる文法範疇として位置づけられるが、両者は微妙に絡み合い、意味に微妙な違いをもたらしている。本研究では、実例に基づく実証的・記述的な立場からテンスとアスペクトを分析考察する。
	研究の結果	研究成果としての単著では、第Ⅰ部においてテンスを扱い、第Ⅱ部においてアスペクト（進行アスペクトと完了アスペクト）を扱った。まず、(1) 第Ⅰ部、第1章において、テンスとアスペクトの関係性を鳥瞰図的に論じた。(2) 第2章では、単純現在時制の意味機能について、モダリティの立場から論じた。(3) 第3章では過去時制の意味機能、(4) 第4章では英語未来表現を論じた。(5) 第Ⅱ部、第5章では進行アスペクト、(6) 第6章では完了アスペクトについて論じた。
	研究の考察・反省	おおよその研究目的は達成できたものと思う。しかし、当初、第Ⅱ部、第5章の進行アスペクトでは、「知覚動詞構文」についての考察を含める予定であったが、シリーズもの単著紙幅の制約から、当該項目については触れることができなかった。知覚動詞構文については次回機会に譲ることとしたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 [発表なし]	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	[単著出版] 『ことばを彩る1 テンス・アスペクト』 平成30年11月30日 研究社	